

「み言葉の種」

(マタイによる福音書 13:1-9,18-23)

創立記念礼拝をおささげ出来ること、神さまに感謝します。この状況ですから、来たくても来られない方も沢山おられます。すべての人の思い、そして祈りが聞かれるように、願い求めながらこの礼拝をおささげします。

今日のたとえ話で問題にされているのは、種（み言葉）そのものではなく、種（み言葉）を蒔かれた人間の側です。すでに種は蒔かれています。では、蒔かれた側の人間はどうか、振り返りつつ、み言葉に耳を傾けましょう。

主イエスはたとえ話をされた後、「耳のあるものは聞きなさい」と言われます。主イエスのたとえ話は、天の国の教えを日常的な題材を用いて分かりやすく教えるものでしたが、耳開かれず、心閉ざす者には「謎」でしかありませんでした。しかし、一度耳が開かれると、主イエスの言葉が、そして愛が大波のように押し寄せてくるのです。開かれた耳でみ言葉を聴くなら、み言葉を通して神に出会い、恵みを知り、その人は大きな実りに与ります。単なる道徳や、人生訓として聖書を読むなどということでは終わるのではなく、それによって生かされる、み言葉から命をいただく、そういうみ言葉との出会い、交わりに迎えられるのです。

そういうみ言葉との出会いのために、主イエスは、「み言葉を聞いて悟らなければならない」と仰っています。しかし、わたしたちは「道端」「石だらけのところ」「茨の中」で生きていますから、様々な理由によってそれを阻まれ、また誘惑に負けてしまうので、悟ることなど到底できないように感じられます。しかし、わたしたちの耳を開き、悟りを与えてくださるのは神なのです。パレスチナではあらゆるところに種を蒔いて、その後で鋤を入れて土地を耕していきます。それゆえ、風に飛ばされてしまったり、踏みつけられたりして、無駄になる種も多く、収穫率も高くありません。けれども、農夫は豊作を信じて種を蒔き続けます。神は、パレスチナの農夫たちがそうするように、わたしたちがどのような環境にあっても、そこを耕し、開き、種に実りをもたらしてくださいます。種を蒔く神がわたしたちを離すことなく、耕し、導いてくださるから、わたしたちの耳は開かれ、み言葉をこの身に受け、み言葉によって生かされる、そういう命に与ることが出来ます。

創立記念礼拝に今日の箇所が読まれること、まさに時宜にかなった箇所が示されたと感じます。礼拝再開後、人数制限はしつつも、今日の創立記念礼拝にあたっては堅信5年、10年そして受洗50年の方々をはじめ、沢山の方にお知らせをお送りしました。しかしその内来られる方は（残念ながら）そのほんの一部、来られずとも、お返事をくださる方もほんの一部です。洗礼・堅信を受けられた時、きっと多くの方が熱い思いを抱いたことでしょう。しかし、時が経ち、教会に来ていない方が沢山おられます。教会に来なくなる理由は様々ですから、そのことを簡単に分析し、語るなどできませんが、事実、わたしたちは「道端」「石だらけのところ」「茨の中」で生きていますから、そのようななかで、教会から離れてしまうことがあります。しかし今日の福音は、そんなわたしたちに主はいつも伴い、御腕を離すことはないと伝えていきます。「わたしの口から出るわたしの言葉もむなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げわたしが与えた使命を必ず果たす。」この力強い神の宣言の通り、神のみ言葉はむなしく天に戻ることなく、神の思いを必ず実現されるのです。御心はわたしたちから離れることなく、わた

したちが誘惑に負けてしまい、時には何の気なしに教会から離れてしまうことがあっても、神は決して離れていく人を手放すことはありません。その手を掴み、その人が御腕に気が付き、耳開かれて神の愛で満たされることを願い、導き続けておられるのです。

パレスチナの農夫同様、主イエスもまた徒労に終わるような現実の中でも、豊かな実りを信じて旅を続けました。今日もまた、「その日、イエスは家を出て」とあるように、イエス様は出かけていき、船に腰を下ろし、人々と語り合い、神の国を宣べ伝えます。宣教の成果はすぐに目に見えるとは限りません。それでも宣教者は、神のみ言葉は必ず豊かな収穫をもたらすことを信じて出かけていくのだと、主イエスはその姿によって示されました。

礼拝休止期間中も教会のお庭はきちんと季節に沿った営みがなされていました。季節ごとに異なる花が咲き、実りがある。冬には枯れてしまったように見えた木も、今は生い茂っている。一見何も植えられていないようなところから、春になったら芽が出て花が咲く。それと同じように、神の御力はわたしたちには一見して分からなくとも、常にわたしたち一人ひとりに注がれています。枯れてしまった木に栄養が絶えず送られ、実りをもたらすように、今、枯れたように見えるその人にも神は必ず実りのため、耕し、養分を送り続けてくださっています。今日、あらためてこの神の力、み言葉の力を信じて歩み始めましょう。そして、主イエスが信じて種を蒔き続けたように、わたしたち自身もみ言葉によって生かされ、実りを与えられつつ、種を蒔くために出かけてまいりましょう。